

令和元年 8 月 26 日

平成 30 年度 学校関係者評価委員会報告

学校法人平成医療学園
なにわ歯科衛生専門学校
学校関係者評価委員会

学校法人平成医療学園 なにわ歯科衛生専門学校 学校関係者評価委員会は、平成 30 年度自己評価報告書に基づき、学校関係者評価を実施しましたので、以下の通り報告いたします。

記

1 学校関係者評価委員 出席者

(外部委員)

小谷 泰子	(医療法人美和会 平成歯科クリニック院長・大阪府歯科医師会 理事)
永田 節子	(公益社団法人 大阪府歯科衛生士会 副会長)
藤川 みどり	(五條歯科医院 事務長・歯科衛生士)
吉岡 宏之	(株式会社ヨシオカ 代表取締役社長)
亀岡 伸行	(株式会社ヨシオカ 取締役 営業部部長)

(内部委員)

零石 聰	(なにわ歯科衛生専門学校 校長)
岡田 光司	(なにわ歯科衛生専門学校 担当理事・顧問)
松本 啓子	(なにわ歯科衛生専門学校 教務顧問)
中西 久美江	(なにわ歯科衛生専門学校 教務主任)
成尾 秋子	(なにわ歯科衛生専門学校 教務主任)
岡 桂奈子	(なにわ歯科衛生専門学校 教務副主任)
前田 千夏	(なにわ歯科衛生専門学校 教務主任補佐)
久司 明子	(なにわ歯科衛生専門学校 教務主任補佐)

当日欠席者

渕端 孟	(なにわ歯科衛生専門学校 名誉校長)
宮内 修平	(みやうちデンタルクリニック 院長・日本歯科審美学会 会長)

2 学校関係者評価委員会の開催状況

開催日:令和元年 8 月 25 日(日) 9 時 30 分～12 時 00 分

開催場所:なにわ歯科衛生専門学校 2 階会議室

3 学校関係者評価委員会報告

別紙のとおり

以上

別紙

I 重点目標について

本校は歯科衛生士の人材育成が目標であり、当然それに必要な知識技能を修得するとともに、医療人としての人間性を重んじた教育を念頭においている。

現在、ますます高齢化社会が進んでおり、それに対応する歯科衛生士として業務も深化している。歯科医療現場に携わる講師を招致したり、老人ホーム等多岐に渡る臨床実習を行ったりしているが、時代の動きが早く、ニーズに追いついていないのが現状である。

業界の方の力も借り、ニーズにこたえられる歯科衛生士の育成に努めていく。(委員長)

業界としても同様の問題を抱えており、卒業しても何をしたらいいか分からない、就職しても歯科衛生士自体を辞めてしまうといった方もいる。厚労省からも辞職防止や復職支援に力を入れよう話が出ており、対応に努めている。仕事をしていれば楽しいこともあるのに、知らないままではもったいない。(外部委員)

人間性の育成について。医療現場では人間同士の繋がりがあり、本校卒業生(で就職した者)もしっかりとっている。再就職後の状況を把握して欲しい。昔の方が厳しかったのか、就職したときにめげてしまうこともある。現場の厳しさをどこまで許容できるか、耐えられるかといったことも人間性育成面での課題である。(外部委員)

II 各評価項目について

項目	評価
基準1 教育理念・目的・ 育成人間像	前身は昭和 57 年創立、平成 19 年平成医療学園と協力提携、平成 21 年経営移管、平成 22 年校舎移転、平成 25 年夜間部開設といった流れを辿っている。 平成医療学園は一条校であるので大阪府ではなく文科省の管轄となる。コメディカル・歯科衛生士の育成をなにわ歯科衛生ではどのようにしていくかが、法人の課題である。情報はすべて HP に公開し、誰でも見られるようにしている。 また、令和 2 年度より、宝塚医療大学の併設校として和歌山に理学療法学科と作業療法士学科が設置される。
基準2 学校運営	事業計画により実施しており、法人管轄の各校について細かく記載し公表している。 情報システムとしては、グループセッションを導入し、情報の共有、業務の効率化を図っている。教育システム（データ処理・管理）の構築がまだ途上である。

基準3 教育活動	<p>目標設定に関しては、実際の医療・介護現場に携わり、緊張感と喜びを持ってもらえるよう指導している。学生の学習意欲に結びつかが課題である。学生の理解度に幅があり、特に実技科目には器用・不器用といったもある。</p> <p>教育方法に関しては、教員が教育協議会での研修等に参加しているが、受講人数に制限がある。学内でも授業アンケートができる科目とできていない科目がある。</p> <p>成績評価に関しては、学生の文章読解能力が乏しいことが上げられる。</p> <p>資格・免許の取得の指導体制に関しては、1年次から国試合格に向けての積み上げを行っている。</p> <p>教員・教員組織に関しては、人材を求めているが、確保が難しい。後進が育っても安定しないのが課題である。</p>
基準4 学修成果	<p>学修については個々にレベルの差があり、担任が学生と密に対応するようにしている。国試対策は、学生生活に慣れた頃から行っているが、学年カラーが異なる。就職については、卒後の情報収集が不十分であり、業界を離れてしまうと分からず。学生へは希望アンケートを細かく取り指導している。インターンシップへの参加や履歴書の書き方も指導している。就職は早く決めたいが、国試の結果が出るのが3月末なので、残っている学生の指導が難しい。「卒業生を囲む会」も行っており、先輩の話を聞くので、それには教員は入らないようにしている。</p>
基準5 学生支援	<p>本校の特徴として、学生との距離が近いということが上げられる。担任制を取り、事務相談や他の教員との情報共有もしている。</p> <p>就職活動については、求人票をリングファイルに綴じて閲覧できるようにしている。しかし一度に見られる人数が限られるので、Webでの対応を検討している。</p> <p>中途退学への対応については、退学の兆しがあれば声掛けや面談をしている。体調不良や成績、学費の滞納などの学生に対しては、学生から情報収集し状況確認を行っている。</p> <p>状況に応じて保護者と連絡を取り面談等の対応をしているが、保護者と連絡がスムーズに取れない場合や本人任せにしている保護者も多く、苦慮している。</p> <p>学生相談については、担任や事務担当職員との密接な連携により個別に対応し、家庭環境に変化があった場合も同様に相談にのっている。</p>
基準6 教育環境	<p>施設設備については老朽化の対応が課題である。プロジェクターの故障により、新規で2台購入した。研修としては、ロサンゼルスでの海外研修を継続して実施している。</p>
基準7	<p>入試については面接試験が主体であり、客観的な評価のできる面接官の</p>

学生の募集 と受入れ	育成を検討課題に掲げているので、取り組みを行って欲しい。
基準8 財務	現在の法人全体の財務状況について確認をした。
基準9 法令等の遵守	個人情報の法律が厳しく、いい部分もあればやりにくい部分もある。連絡網ができなくなったり、名簿を売られたりといったことなど。学生の成績や情報が漏れない対策が必要である。守る部分と公開が必要な部分がある。古くからの学校になると管理物も多い。コンピューター・ネットによる漏洩の問題もある。コンプライアンスを取り入れている。
基準 10 社会貢献 ・地域貢献	老人ホームや小学校・幼稚園での歯科保健指導のほか、ロサンゼルス研修では日系老人ホームへの訪問も行っている。

III 学校関係者評価結果の活用状況

学校関係者評価結果は、外部から見る本校の客観的な状況として捉え、今後の学校運営を考える大切な情報であると認識している。よって学校関係者評価結果は、それらの内容に応じた部門で共有され、各部門会議(運営者会議、教務委員会、教職員会議等)により、今後の課題の抽出や対応策の検討に役立てられている。

項目	評価
基準3 教育活動	授業のアンケートを取るようにしているが、できていない科目もある。カリキュラムとしては、看護師の業務記録を取り入れ、実習先や病院で有効的に活用できるようにしている。
基準4 学修成果	学年ごとに交流を深め、外部ではなく授業時間内で交流の場を検討して欲しい。昼間部では3年に一度、デーブルマナー講習以外を検討する。
基準5 学生支援	同窓会からの発信を充実させる。
基準6 教育環境	漏水により、防水工事を行った。音姫の設置も各階順次行っている。

以上